

マラウイ便り -Vol. 1-

ムリバンジー！みなさんこんにちは！

青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国に派遣されている安村真^ま尚^な人^とです。4月初めの現在、マラウイは雨季の終わりに差し掛かり暑さも和らいできたところですが、日本は桜が咲き始め徐々に温かくなってきている頃でしょうか。マラウイに来て早いもので2か月が経ちました。そもそもマラウイってどこ！？初めて聞いた！という方もいらっしゃると思うので、今回はマラウイという国について、私なりに住んでみて感じた事を織り交ぜながらお伝えしたいと思います。読んでいただく方に少しでもマラウイの魅力を感じていただけると幸いです。

マラウイってどんな国？

まずは簡単に基本情報から。

マラウイは、アフリカの南東部に位置しタンザニア、モザンビーク、ザンビア、ジンバブエに囲まれた人口約1600万人、国土面積118,000 km²（北海道と九州を足したくらい）、国土の約5分の1が湖（琵琶湖が滋賀県の6分の1）の自然豊かな内陸国です。

2016年度の一人当たりのGNI（国民総所得）は約350USドル（統計217か国中215位）で世界最貧困国のひとつに数えられ、国民の半数以上が1日1ドル以下

で生活していると言われています。労働人口のおよそ80%が農業に従事しており、自給作物としてメイズ（トウモロコシ）が、農産輸出品としてタバコや砂糖などが生産されています。慢性的な食糧危機に見舞われており、2016年は2年連続の天候不順のため国民の約半数に国際機関からの食糧援助が必要な状況でした。

マラウイには40ほどの民族集団が存在すると言われており、各民族によって話される言葉も異なります。一般的に広く話される言語がチェワ語で、公用語には英語が使われ、小学校5年生からは英語で授業が行われます。冒頭の「ムリバンジー！」はチェワ語で「How are you?」という意味で、挨拶の際に必ず使われるとっても大事な言葉です。

マラウイの生活は？

私の住んでいるマチンガ県リウォンデは、マラウイ国内でも特に自然の美しい地域として知られています。国内有数のサファリパークがあり、近所の川では野生のカバの姿を見ることができ



ます。私の家が川辺の近くということもあり、夜になるとたくさんの蛍が現れます。空一面に広がる星空と光り輝く蛍の光景は形容し難いほど美しく、この光景を見るだけでマラウイに来てよかったなあと思えるほどです。

そんな自然豊かな土地でも生活するうえで欠かせないのが水と電気。特に水は料理、洗濯、トイレ、シャワー、手洗いなど毎日必ず必要なものです。電気が無いと携帯電話やパソコンの充電もできないし、冷蔵庫で冷やしたビールを飲むこともできません。この国マラウイには、そんな水と電気が無いのは当たり前。渡航前に事前情報で生活圏の概要を教えてもらえるのですが、私の住んでいるマチング県は、週7日停電・断水と聞かされてきました。週7って、いくら何でも何かの間違いでしょ！？と思っていたのですが、残念ながら間違いではありませんでした。一日のうち、必ずどこかで停電と断水が起こります。ある日、同僚のマラウイ人が午後から出勤してきたので、遅くなった理由を聞いてみると「久しぶりに蛇口から水が出たから、洗濯してた！」と言うのです。また、別の日には「停電でパソコンが使えないから仕事にならない。」と言って午前中で帰ってしまうこともありました。私自身もマチングに来た当初は水が一滴も出ない日が9日間続き、いくら捻っても出てこない蛇口をひねり過ぎて持ち手を壊してしまうことがありました。10日目、ついに水が出たときには、嬉しさのあまり蛇口からでた水と同じくらいの量、涙が出たことは言うまでもありません。それほど、断水と停電は過酷で、マラウイの生活を語るには欠かせないものなのです。

マラウイ人ってどんな人？

私の感じるマラウイ人の印象は、ゆったりでおおらかな人が多い。何をするにも、あまり時間を気にしている人はいません。せっかちな日本人としては、なんで時間通り物事が進まないんだろうとイライラしてしまうこともあります。2時間遅れは当たり前、半日遅れることもよくあることで、一生懸命予定を立ててスケジュール通り進めようとしてもまずうまくいきません。それでもマラウイ人は「パンゴーノ、パンゴーノ（ゆっくり、ゆっくり）」と言って焦らないんです。

シレ川。普段は優雅に泳ぐカバの姿が。



4LDKの自宅。一人にはかなり広い。



小さな親友たち。毎日遊んでもらってます。



そんなマラウイ人を見習って、時間に余裕を持つよりは、心に余裕を持つよう心がけています。マラウイ人はアフリカの中でも『Warm heart of Africa(アフリカの温かい心)』と呼ばれており、おおらかで優しく温かい心を持った人たちです。そんな彼らに私はいつも助けられています。断水続きの時も大家さんが毎日のように大きなバケツに水を汲んで持ってきてくれていました。また、つい先日体調を崩してしまったのですが、そのことを聞きつけた近所の方々が次から次へと家を訪ねてきて

「体調崩したって聞いたけど大丈夫？薬あげるよ。」「ごはん作れないでしょ？晩御飯持ってきたよ！」などと言ってくれるのです。普段は「Give me money(お金ちょうだい)!!」と執拗に迫ってくる子ども達も「ジュース持ってきたよ～」となげなしのお小遣いから買ってくれたジュースをくれる健気さったら、たまりません。そんなマラウイ人の『Warm Heart』こそが、マラウイの一番の魅力だと感じています。

マラウイで何してるの？

最後に少しだけ、私の活動について触れさせてください。私の配属先は、教育・文化・コミュニティ開発省の管轄するマチンガ県コミュニティ開発事務所。地域住民の『収入向上』と『生活改善』をテーマに、小規模ビジネスグループのサポートや公共事業のモニタリング、成人の識字教育や HIV/エイズ啓発活動など幅広い業務を行っています。現在、この事務所に配属されて1か月が経ちました。同僚のワークショップについて行ったり、活動概要の資料を読み合わせたり、時にはお茶を飲みながらおしゃべりしたり（これがほとんど！）と同僚や他部署の方々との人間関係作りに励んでいるところです。まだまだ活動は始まったばかりなので、マラウイ人のように焦らずじっくり、少しずつ地域の方々と一緒に持続可能な変化を作っていきたいと思います。

お伝えしたいことはまだまだ沢山あるのですが今回はこれぐらいにして、次回はもう少し生活のこと、活動のことについて詳しくお伝えできればと思います。それでは、ティオナナ～（さようなら）！！